

# 時事コラム

2020年度のFCV向け水素充填量は314万S<sub>m</sub>³

HYSUT（一般社団法人水素供給利用技術協会）集計によると、2020年度の水素ステーションにおける水素充填量（FCVのみ、FCバス含まず）は、前年度対比4.5%増の314万S<sub>m</sub>³（25万964kg）だった。

伸び率は当初の予想よりも小さく、同協会では「新型コロナウイルスの影響で伸びが鈍化したのではないかと推定している。」

## 大陽日酸

高性能溶接可視化カメラ「サンアークアイ」の新モデルを受注開始

大陽日酸（永田研二社長）はグループ会社である日酸TANAKAと共同で、「自動遮光フィルター用のアダプター」を装着可能な高性能溶接可視化カメラ、「サンアークアイ」の新モデルを開発し、2021年4月から受注を開始した。

「サンアークアイ」はアーク光による画像の白飛び（ハ

レーション）を低減するNDフィルターを有しており、溶融池や凝固過程等の詳細なモニタリングを実現することができる。しかし、19年4月より販売されている従来型のカメラは、NDフィルターによって光を抑える構造上、撮影前の調節で一度カメラ先端部の内側に取り付けられたNDフィルターを外さねばならず、調節後再度取りつける手間があるという欠点が挙げられていた。

今回の新型カメラでは、そうした欠点を補う為、「自動遮光フィルター用のアダプター」をオプションで装着可能な設計に変更した。このアダプターによってNDフィルターの代わりに、レンズ外部への遮光フィルター取り付けが可能となり、撮影前に生じていたNDフィルターの着脱が不要となる。また、この遮光フィルターはNDフィルターに対して、溶接時に発生する光量を大きめに自動で調整する為、光量調整による着脱の頻度も下げられている。

尚、アダプターを装着しない標準仕様においても、ユーザーの要望に応えデザインを一新し、約12%軽量化され改良が加えられている。

同社は新型「サンアークア

イ」の販売目標を年間20台としている。

## 東京貿易メカニクス

非常用浄水装置の取扱い開始

ガスコンプレッサーなどの高圧ガス機器販売を手掛ける商社、東京貿易メカニクス（東京都中央区、森山重社長）は今年4月から非常用浄水装置の取扱いを始めた。近年全国各地での災害の発生を受け、BCPの観点から散水設備を有する充填所や貯水槽を持つユーザーを中心に拡販を進める考えだ。

非常用浄水装置（シバウラ防災製作所製）は、上水道の水を貯めた地下貯水槽やプー



小川営業部主任



炭酸ガスを積載した非常用浄水装置

### 非常用浄水装置一覧

| 種類          | エンジン・手動ポンプ併用型 | モーター・手動ポンプ併用型 | 手動ポンプ型       |
|-------------|---------------|---------------|--------------|
| 動力源         | 4サイクルガソリンエンジン | AC100V        | 手動           |
| 初期処理能力(L/h) | 2000          |               | 1000         |
| 外径寸法(mm)    | 793×537×650   |               | 544×472×1070 |
| 乾燥質量(kg)    | 約48           |               | 約25          |
| 吸込ホース(m)    | 5(φ25)        |               |              |
| 給水ホース(m)    | 2(φ15)        |               |              |
| オプション       | 炭酸ガス中和装置      |               |              |
| 価格の目安(円)    | 120万          |               | 90万          |

ル、地上式水槽などの水を活性炭フィルターと中空系膜のフィルターを介することで生活用水（条件が良ければ飲料も可）として利用できる装置となる。浄化可能な最大水量は90万ℓで、D25×W12×H1（m）のプール3倍分が目安とされている。河川や海水では浄水不可。なおオプションで炭酸ガス中和装置の取付けを行っており、pH値の高い水への対応も可能としている。またフ

フィルターの逆洗浄機能を搭載することで、フィルターの交換時期を5年としている。

装置についてはこれまで役所や公共機関、水槽車を中心に数百台の納入実績があるが、産業向けにはほぼ皆無とされている。同社の小川真志営業部主任は、「近年は大きな災害が続いており、充填所ではLPG非常用発電機の設置が進んでいる。ただ災害時には地域貢献を求められる部分があるとも聞いている。災害時、飲料水や炊事には一人一日最低3ℓ、生活用水には最低30ℓ必要とされており、こうした大量の水確保を行う一助になると考えている」として、BCP強化の提案を進めている。

## SBエンジニアリング

LPガススマートメーター用ネットワークコントロールユニット（NCU）の設置・保守サービス開始

ソフトバンク（宮川潤一社長、本社・東京都港区）子会社のSBエンジニアリング（今井康之社長、本社・東京都江東区）は、ソフトバンク及びベイシス（吉村公孝社長、本社・東京都品川区）と共同でLPガス事業者向けにLP